

10月下旬「宮地技報」の編集委員会の事務局より一通の封書を戴き驚きました。本当に僭越ですが大切な紙面を汚すことお許し願います。

昭和32年春宮地建設工業(株)に入社致しました。当時は不景気の時代で同級生の半数は就職ができない状態で(株)宮地鐵工所の姉妹会社である当社に就職でき大学側でも非常に喜んでくれましたが、本人の自分は学生時代スポーツに夢中でハンドボールに明け暮り自信もなく入社した次第です。それが伝統のある会社は厳しくその反面家庭的で愛情もあり諸先輩の人々もよく指導してくれました。そのお陰により本日の自分があるものと深く感謝し確信しております。

宮地の架設の技術は明治41年の創業に始まり創業者は元より多くの先輩達の日夜の努力と英知の結集に源を発しているものと思います。大正初期より橋梁架設工事を手がけ又建築鉄骨建方工事、さらに昭和初期より空中線鉄柱建方工事と特に架設工事には力を注がれ終戦までは韓国での活躍は目を見張るものだったようです。昭和24年4月土木部が分離し当社が発足しそれからは共に両社が発展したと聞いております。我々は伝統を守り正しく技術を継承し、なお一層各人が努力し切磋琢磨しなければ技術の進歩はないと思います。

両社共に「宮地」として一致協力し世の中に役立つ技術の開発に挑戦しましょう。

30数年を振り返れば走馬燈の様にいろんな現場が思い出され、特に18年間の現場体験は永い様で案外短くも感じます。いろんな人との出会いは未熟な自分にとって技術の修練の場所であり人生の教育の場所でもあった様です。今でも感謝しておりますが企業者側の皆様いろいろ御指導願いました。又協力会社の親方の人々にも教えてもらったものです。

入社後は景気もよくなり高速道路時代に突入し現場も多くなり無我夢中で頑張ったものです。幸運にもよい現

場を多く経験出来、特に東京タワーと関門橋は一生忘れられない現場です。それから本州四国連絡橋の大鳴門橋をはじめ、兎島・坂出ルート、尾道・今治ルートの大型プロジェクトに参画でき、少しは役に立てたかと思っております。

我々架設専門業者の技術員は安全・品質・工期に責任をもって発注者の信用を得ることが第一であり誇りでもあります。工事を施工する地域の地元住民の人々に愛されるよう努力しなければならないと思っております。

工事施工計画は安全第一を常に優先して考え、工事ごとに施工に先だち類似工事の記録を調査し、今までの経験を生かして現場施工をより完全に出来る工法を採用しなければなりません。その為経験者の意見や今までの問題点を洗い直し究明し、さらに創意工夫をこらして新しい工法などを研究し、綿密な施工計画を作ることが大切であり、絶対失敗は許されないものであるため確信を待って施工出来る計画にしなければなりません。施工計画がどんなによくてもそれを正しく実施しなければなんにも役に立ちません。そこで技術員は鷹職・鍛冶工等の技能員の実力を知った施工体制を作り、細心にしかも時には大胆に工事を進めることです。

構造物を作る我々の成果は、正確にすぐ現れるのでごまかしとか、いいかげんなことは絶対許されないのです。どんなことがあっても、ルールにそって品質のよい構造物を早く安くりっぱに完成させたいものです。技術及び知識を向上させることは、毎日の経験や勉強の努力によって来るものであるから、毎日を大切に各人が蓄積整理し、今後の仕事に利用出来る様努力しなければなりません。若い人も努力した人はどんどん成長しております。自分にとって若い人が成長して我々と交代して現場を安全に守ってくれており、だんだん数が増えて来たことが一番の楽しみです。又会社の宝でもあります。